

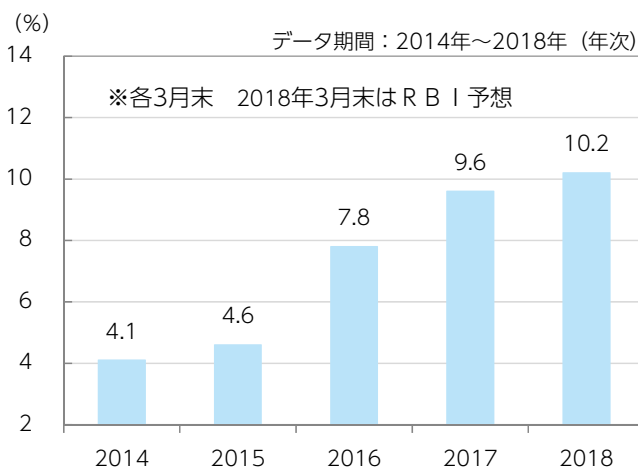
新興国レポート

インド政府が資本注入の具体策を発表

2018年3月末までに国営銀行20行に約8,800億インドルピーを注入

- ▶ インド政府が昨年10月に発表した国営銀行への2018年3月末までの資本注入計画が発表された。
- ▶ 当資本注入計画の実施により、インドの不良債権問題は解決に向け、また一步前進するものと思われる。インド経済の課題の一つとされる不良債権処理の進展は株価の支援材料に。インドの格付け引き上げ観測につながる可能性も。
- インド政府は1月24日、今年3月末までの国営銀行20行への資本注入額及びその資金調達方法を発表しました。金額は約8,800億インドルピー（約1.5兆円）、その内約8,000億インドルピーは債券発行で、残り約800億インドルピーは政府予算より支出するとしています。インド政府は昨年10月に、2017年度の2018年3月までの残りの期間及び2018年度（2018年4月～2019年3月）合計で2.11兆インドルピー（約3.6兆円）を国営銀行に資本注入する計画を発表しています。同注入額は2016年度の注入額約2,300億インドルピーの約9倍に相当します。今回の発表は昨年10月に発表した計画の一部を実行に移すものです。
- 定義を厳格化したこともあり、銀行の抱える不良債権額は急増しています。インド準備銀行（RBI）の2017年6月時点の見通しによると、2018年3月末時点での貸出残高に占める国営・民間銀行合計の不良債権比率は10.2%（図表1）、また貸出残高全体の約7割を占める国営銀行の同比率は銀行全体の平均を上回る13.2%と予想されています。インド政府は2016年5月に破産法の制定、2016年10月に倒産・破産委員会の設置、2017年5月にはRBIにより強い権限を与える不良債権処理包括案の承認等を行い、不良債権問題の解決を急いでいます。今回発表された資本注入計画が実行に移されることにより、不良債権処理がまた一步前進することとなります。
- インド株式市場は1月23日に、市場全体の動きを示す代表的な指標であるSENSEX指数が36,000、銀行セクター全体の値動きを示すBSE銀行株指数が31,000を初めて突破する（図表2）等、上昇基調を強めています。不良債権を多く抱える銀行は貸出に消極的となり、インド経済に悪影響を及ぼしていると考えられています。資本注入によって銀行は不良債権処理を進め易くなるものと思われます。銀行が財務基盤を強化し、成長分野等への貸出意欲を高めることとなれば、経済成長の底上げにもつながり、企業業績の増額修正期待等を通じて株式市場の支援材料になることも考えられます。

図表1：インドの銀行の不良債権比率の推移



図表2：インド株式市場動向



出所) 図表1はRBI、図表2はブルームバーグデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント